

Enhavo .....	1
第91回世界エスペラント大会参加記.....	裕 大福 .. 2
世界大会報告.....	吾郷孝志 .. 11
世界エスペラント大会に参加して .....	斎藤康子 .. 14
エスペラントによる大本と韓国・圓佛教との交流 ..	斎藤 直 .. 16
圓佛教「国際禅セミナー」に参加して .....	参加者の声 .. 24
ブラジル・エスペラント大会報告.....	前田茂樹 .. 30
EPA支部便り .....	36
通信添削講座模範解答 .....	裕 大福 .. 37
通信添削問題 .....	39
EPA事務局便り .....	40

## 2006年6月 新規・継続会員

新規：普通会员：田中昭美（熊本）、留目昌子（北海道）

継続：普通賛助会員：矢野裕子（徳島）

普通会员：津田昌夫（兵庫）、旗手朝子（神奈川）、都賀本明子（鳥取）、山元誠、梶谷美穂子、中脇健（大阪）、小林弘子（広島）、川上公平（新潟）、池内泰子（福岡）、御牧康男、青嶋裕子、浅井清高、井畑東州、岩崎輝、小川潤、奥原能、加藤千春、川地善則、木村茂、栗崎文彦、佐賀野淳、四方真人、柴田恒夫、平岡康、松永梅男、松山孝、宮原雅博、村田隆一（京都）、高森登代（和歌山）、平松厚子（岡山）

家族会員：松永和子（京都）

購読：阿井みどり（静岡）

Multan dankon kaj  
bonan kunlaboron!

## 2006年7月 新規・継続会員

継続：普通賛助会員：坂下正昭（愛媛）

普通会员：矢野健、亀岡美和子、成田恭子、後藤純子、平山久美子（大阪）、

松浦安仁、山上三千正（石川）、伊藤美恵子（三重）、島崎幸雄（徳島）、大濱文男、江本やよひ（岡山）、塩崎文江（滋賀）、谷口岩雄、佐藤英治（北海道）、椎名聡、椎名悦子、大和田そよ（茨城）、井上俊昭（山口）、西永賢治（広島）、田淵八洲雄（兵庫）、曾田美喜子、久保田克、上田信（京都）、山脇治夫（和歌山）、多田昇（山形）

家族会員：松浦郁代（石川）、大和田功（茨城）

購読：犬丸文雄（東京）

表紙の解説（Klarigo pri kovrila bildo）

出口 瑞（DEGUĈI Micugi）

「龍宮」“Drakpalaco”

## 第91回世界エスペラント大会参加記

### エスペラントの産みの親 “ フィレンツェ ” から言語民主主義を発信

はざま ひろとみ  
EPA 常務理事 裕 大福

第91回世界エスペラント大会はイタリアのフィレンツェ市で7月29日から8月5日まで、62カ国から2209人(後記の決議文作成時には2206人)が参加して開催された。会場は同市中央駅(サンタ・マリア・ノヴェッラ駅)前の「会議広場」内の複数の建物で開催された。名誉大会長は今年5月に大統領に就任したばかりのジョルジョ・ナポリターノ共和国大統領で、大会テーマは「継続可能な発展に向けての言語、文化、教育」であった。



日本からの参加申込みは181人、大本からは三好鋭郎氏を団長として14人が団体で、合計で19人が参加した。ちなみに、参加者は多い順にフランス302人、イタリア279人、日本181人、ドイツ159人、ポーランド129人。またヨーロッパ域外からの参加者は494人であった。

#### 花の都 “ フィレンツェ ”

フィレンツェ(Firenze、エスペラントではFlorenco)はイタリア半島の西側、フランスの紺碧海岸に続くリグリア海に面するピサからアルノ川を遡ったところにあり、トスカーナ地方に属し、トスカーナ・ワイン、キャンティ・ワインなどで知られている。もともとは紀元前10世紀ごろにイタリアに移住してきたエトルリア人が現在のフィレンツェの市街を見下ろすフィエーゾレという丘の上に町を作ったのが始まりで、その後ローマ人が紀元前59年、ユリウス・カエサル(シーザー)の時代に、ここに農業都市を作り、都市の名前もラテン語で花の女神を意味するフロレンティアと命名された。これがフィレンツェ市の名前の由来とされている。

市の中心的な建築は教会で、6世紀に初めて建てられた聖堂サンタ・レパラータ教会を、西暦1300年ごろにアルノルフォが建て直

したときにサンタ・マリア・デル・フィオーレ(花の聖マリア教会)という名前になり、現在はドゥオーモと呼ばれている。イタリアでは教会は「神の家」と称され、現在は単に「家(ドゥオーモ)」といい、どの町にもドゥオーモはある。フィレンツェのドゥオーモは、その後1420年に、ブルネッレスキが巨大な円蓋(クーポラ)を加え、街中での方角のしるべとなっている。教会から少し離れて建つ鐘楼はジェットの設計になるもので、「ジェットの塔」と呼ばれ、クーポラとともに方角のしるべとなっている。

世界エスプラント大会の開会式には、フィレンツェ市長も出席して、メディチ家私有であった要塞跡「フォルテツァ・ダ・バッソ」(Fortezza da basso)で7月30日午前10時から開催された。要塞跡といっても、堀もあり城壁もあり広大である。ジョルジュ・ヴァザリーが建築したもので、トスカーナ大公コジモ1世は3万の兵をここに常駐させた。フィレンツェはかつてメディチ家が統治しており、ここだけでなく、街中のあちこちに、メディチ家の紋章である六個の丸葉が並んだものが見られる。メディチ家は毛織物業と金融業で当時ヨーロッパ屈指の富豪となり、同家からは三人の教皇、レオ十世(在位1513~21)、クレメンス七世(在位1523~34)、レオ十一世(1605・4・1~1605・4・27)を出している。

当時のフィレンツェはヨーロッパの金融センターで、為替や複式簿記を発明した町であり、フィレンツェの金貨フロリンは国際通貨として流通していた。また、フィレンツェの銀行家には、メディチ家のほかにも多数の富豪があり、教皇庁の教皇税の資金を運用したり、イギリス国王、フランス国王などにも多額に貸し付けていた。

フィレンツェはエスプラントの産みの親

開会にあたり、世界エスプラント協会会長のレナート・コルセッティは、エスプラントは1887年にザメンホフ博士が考案し発表されたことにより、今日のエスプラントがあるが、その前に、フィレンツェにルネッサンスが起り、



## 第91回世界エスペラント大会参加記

ヨーロッパの中世が終わりをつげたため、近代の諸思想が起こってきたのである。ルネッサンスが無かったならば、フィレンツェが無かったならば、新しい思想が出てくることはなかったのであり、エスペラントは存在していかなかったであろう。そういう意味では、フィレンツェはエスペラントの生みの親といってもいいのであると、あいさつした。

「人間性の復活」といわれるルネッサンスは、イタリアに始まりヨーロッパに波及したのであるが、イタリアではフィレンツェに始まった。大会のシンボルはミケランジェロのダヴィデ像である。



市庁舎前のダヴィデ像  
(レプリカ)

コルセッティ会長は、大会のシンボルのダヴィデ像がミケランジェロによって造られたとき、フィレンツェの町は包囲されていたのである。これをシンボルとしたのは、ダヴィデが巨人ゴリアテと闘ったように、エスペランティストが言語の公平性のために言語支配の権力者たちと闘うことに比したのである。われわれがダヴィデのようであれば、ダヴィデが最後に勝利したように、われわれも言語の公平性のための戦士として勝利するであろうと、述べた。

これは『旧約聖書』の『サムエル記』の第17章による。イスラエルの第2代王ダヴィデは、ペリシテの巨人ゴリアテに立ち向かったとき、剣や槍を使わずに戦うと言い、投石一個で倒したという話である。ミケランジェロのダヴィデ像は革帯にくくりつけた石を背中に垂らして、今まさに石を投げようとしているダヴィデを刻している。このころ、フィレンツェが包囲されたのは、1494年にフランス王シャルル8世がイタリア侵攻をはじめ、フィレンツェを包囲したときだが、ミケランジェロのダヴィデ像制作は数年あとになる。ミケランジェロがダヴィデ像を制作していたのは1501年から3年に掛けてで、この時期にフィレンツェ国境に迫っていたのは、1499年から1515年まで中部イタリアを席卷した教皇の息子チェーザレ・ボルジアの軍隊であった。

フィレンツェ市内のウッフィーツィ美術館には、ルネッサンスの巨匠たちの絵画も展示されている。レオナルド・ダ・ヴィンチ

(「ヴィンチ村のレオナルド」という意)、ミケランジェロ、ボッティチェリ、ラファエロ等々がある。

ウフィッツィ美術館に限らず、イタリアのガイド事情は、市ごと、あるいは美術館や観光名所ごとにガイド免許があるようである。それも厳しい免許制度のようだ。オリンピック会場などへの入場パスのように名札をかけていて、そこに免許と名前が明示されている。日本から同行した添乗員さんは「免許がありませんから、私がここでガイドをすることは規則違反になります」と話していたし、『フィレンツェ』(若桑みどり著)にも「美術館とは、きわめて美術史的な場所なのである。……欧米のガイドは、きわめて美術史的なのである。イタリアでは、ガイドの多くは美術史学科の出身で、それは名誉ある仕事である」としている。来年の横浜での世界大会にも観光の日がある。日本では観光案内をするのに、免許がいるわけではないが、素人のにわか仕込みでも、ある程度の専門知識は持っておくべきだと思った。

#### 62カ国の参加者が一つの言語で話す実感

開会式に話を戻そう。感動的なのは、やはり各国代表のエスペラ



ンチストのあいさつだ。13億人以上の中国もあれば、イタリア国内にぽつんとある小さい国サン・マリノの代表もいる。サン・マリノにはエスペランチストが二人いるという。日本は、横浜大会準備委員で地元横浜エスペラント会の鈴木啓一朗氏が、「来年はぜひ横浜へ」とあいさつした。

それぞれは短いあいさつであるが、62カ国の人々が一つの言葉で話しているという実感が湧いてくる。来年は、「横浜みなとみらいホール」で、このように各国代表があいさつし、そして「エスペロ」を歌っているであろう。

8月1日午前11時半から午後1時まで、会場内「カヌート」の部屋で大本分科会が開かれた。日本のように「正午から午後1時まで一斉に昼食休憩です」ということはない。各自の空いた時間に食事

## 第91回世界エスぺラント大会参加記

をすることになっている。大体がイタリア社会では午後の2時間ぐらいいは昼食時間となっており、街の店舗も閉まる。

「カヌート」の部屋はこの建物では一番いい部屋であった。ちなみに、主催者のUEA役員の秘密の部屋(入口には張り紙もなく、秘密にしておかないと、誰彼となく入室して、打ち合せができないのだそうだ)は、地下一階の喫茶店の裏のトイレの奥の小部屋であった。

### 大本分科会に155人参加

大本分科会は、上山千草さんの開会宣言、牛腸三春氏の司会で開会し、UEA役員のアムリ・ワンドル氏が日頃のEPAのUEAに対する協力について謝意を表明した。次に三好団長のインドネシアに関する活動についてスピーチ。大本紹介ビデオ上映、私のスピーチ「過去5年の大本の海外活動と五代教主」、次に「大本と私」と題して、藤本達生氏、ヒルコ・ミデマ氏、大和田さちさんの「鎮魂」実習、ブラジリア大学名誉教授のパウロ・ナセンテス氏がスピーチをした。続いて吾郷孝志EPA事務局長の講話「2007年大本への誘い」。そして最後に参加団員全員で「基本宣伝歌」を斉唱して、佐藤ミネさんの閉会宣言で終了した。入場者は155人であった。



大本分科会

分科会に先立って、参加団員は会場内でチラシを配り大本分科会入場のお誘いをしたり、「基本宣伝歌」の練習を会場前のさわやかな風の通る芝生の上で行なったが、浴衣着の若い女性にひかれて一緒に練習に加わった外国のエスぺランチストが何人もいた。



大会場前で基本宣伝歌の練習

この夜は街中のレストランで、EPA招待のささやかな夕食会が



EPA 主催の夕食会で挨拶する  
ザメンホフ氏

行われ、ザレスキー・ザメンホフ氏をはじめ、元 U E A 会長イヴォ・ラベナ氏の夫人、ポーランド放送のドブチンスキー氏、バルバラさん、ポーランド・エスペラント協会副会長のエドワルド・コズィラ氏らと参加団員が出席した。

大会期間中、会場で参加者向けに「速報 (kuriero)」が毎年発

行されるが、今年は“Florenca Lilio”(フィレンツェのユリ)と名前が付けられていた。フィレンツェ市の紋章が、白地に赤い百合だからである。この紋章は、もともとは赤地に白の百合であったのだが、1251年にギベリーニ(神聖ローマ皇帝派)と、ゲルフィ(ローマ教皇派)が死闘を演じたとき、教皇派が白地に赤の百合を描き皇帝派と区別し、教皇派が勝利したので、そのまま白地に赤の百合がフィレンツェの紋章となって現在に至っている。

会場内の書籍売り場ものぞいてみた。実に多くの本が並んでいた。機内持込荷物に入れても重くはないと思われた、薄い一冊『中国の磁器』を買った。会計で私の前に並んでいた老婦人は「私もそれを買おうと思ったんだけど、もうこんなに買ってしまったので、その本はやめたの」と言って抱えていた10数冊の本を見せた。

大会プログラムに「国際芸術の夕べ」というのがある。「NHK素人のど自慢」のエスペラント版のようなものである。大会参加者であれば誰でも予選に出られるが、予選を通過しないと舞台に出してもらえない。その審査員を昨年までしていたのがミレーユ女史である。今年のご主人を亡くされて、審査員助手をすることになったという。来年は横浜で私も少しは手伝わなくてはならないので、私と会っておきたいということだった。ついでに初日の7月29日に横浜大会の宣伝も手伝ってくれるということだった。ついては、女史は合気道初段なので、それを披露するが相手いるということだったらしい。聞くところによると、屋外でパフォーマンスを披露したそうだが、私は29日に関西空港を出発したので間に合わなかった。女史はがっしりした体格の良い女性である。間に合わなくて幸いで

## 第91回世界エスペラント大会参加記

あったようだ。

世界大会では毎回「大会大学」が開かれ、大学の先生(教授・助教授・講師)がその専門分野について講義をする。今回も行われたが、それ以外に「教養講座」という講座も開かれた。たとえば「東地中海 文化交流と武力衝突の地域」「世界に対するイタリア・ルネッサンス」「公の場での話術」「イタリアにおけるルネッサンス」「海外のイタリア人、イタリアの外国人」などが行われた。また、別にイタリアについての講義も開かれ、「人文主義とルネッサンス」「ダンテを読む」「イタリア文学について」「ペトルルカについて」「イタリア人のオペラ」「イタリア人のイタリア的であるところ」などが開催された。



2007年横浜大会を宣伝

### 来夏の横浜 UK を宣伝

会場の大会受付付近には、受付とならんで諸種の窓口ができた。2007年8月4日から11日まで開催の第92回世界エスペラント大会・横浜大会の宣伝コーナーもあり、大会準備委員をはじめ日本のエスペランチストが日本地図や扇子、提灯、折り紙などを並べて宣伝した。

8月1日午前8時、会場には誰も来ていない時間だったが、日本側の大会準備委員とUEA役員との打ち合わせ会が、例のUEA役員小部屋で開かれた。やりとりはこんなものであった。「大会参加費はユーロ建てになっているが、日本国内でも受付を始めたいが日本円ではいくらにするか」「為替レートが変動するので確定が難しいが、8月中旬には決めたい。その後の為替変動による増減のリスクはUEAが負う」といったようなものであった。

また、閉会式までフィレンツェに滞在した三好団長からの手紙によると、8月2日夜、市内のホテルで、AIS、〔すなわち Akademio Internacia de la Sciencoj . San-Marino estas universitatnivela kleriga kaj esplora institucio, kiu por scienca komunikado uzas precipe sian Internacian Lingvon (= "ILO"). Kiel tiun AIS elektis la Internacian Lingvon de d-ro



Esperanto.)の会合で、三好氏は「現在のインドネシア国の二言語体制を欧州人に知らせることを提案した」。また「EEU(Eŭropa Esperanto-Unio、ヨーロッパエスペラント連合)でも同様のことを提案した」との連絡があった。

#### 言語民主主義を目指すエスペラント運動に邁進

閉会にあたって大会は決議文を発表した。

「第91回世界エスペラント大会はイタリア国フィレンツェで開催され、62カ国から2206人の参加者を得て、以下の事項を確認した。

向こう10年間(2006 - 2015)の継続可能な発展のためには教育活動が重要な柱組みとなる。それは、社会的に望まれ、経済的に生活力があり、文化的に適当であり、生態学的に継続可能である発展を目指す指導者たちのためである。

現在は、生物的多様性に対して、また文化的あるいは言語的多様性に対して、重要な危機が迫っている。それは、人間と自然環境の間の相互依存に起因するものである。

現在、1言語が世界規模で圧倒的優位に立っていることは、言語環境とコミュニケーションの権利が継続可能であることに関して、経済的に、社会的に、また教育上、諸種の不安な影響が懸念される。

言語民主主義を目指すエスペラント運動を邁進することは、国家を超えた教育と同等の価値あるものである。その目的とするところは、情報を十分伝えられた活動的な市民が、発展のプロセスに責任と連帯感を持って参加するために、自分自身や周囲の世界を批判的に理解する能力を得るためである。



大会場前の広場

また以下の事をアピールする。

エスペラント共同体を、あらゆるレベルの活動に参加させるべき

## 第91回世界エスペラント大会参加記

ある。そのことは、確実に実施して前進に邁進することであり、原則を外れず必要に応じた変化のプロセスも伴うものであり、それらの努力のために自らの言語と人脈を活用することである。

また以下の事を推奨する。

UEAの役員はこれらの関係の問題について、今後の大会や活動において、エスペランチストでない組織ともパートナーとなっていくことに、より注意を払うべきである。

最後に以下の事を確認する。

平和、社会的公正、文化の多様性のための生涯教育を目指して、エスペラント共同体はユネスコや他の組織と協力して活動する用意がある。また、継続可能な発展が言語の面についてもあることに、彼らに対して注意を喚起していく。2006年8月4日、フィレンツェにおいて」

また閉会式では、来年の開催地の横浜市長の歓迎のメッセージが読み上げられた。

イタリアのヴェネツィアを出発して陸路東進し、モンゴル帝国に至ったマルコ・ポーロは、帰国後『東方見聞録』を書き、モンゴルより東方の海中の黄金に輝く国ジパングをヨーロッパに紹介した。

1492年にアメリカ大陸に到達したコロンブス(イタリア生れで、イタリア語読みのクリストフォロ・コロンボがヨーロッパでは一般的)はその航海中、『東方見聞録』をずっと携帯していたという。

イタリア・フィレンツェからジパング・よこはまへ、来年は飛行機でどうぞお越してください。もちろん平和のために。



ミラノ中央駅構内で

## 第 91 回 UK EPA 参加団報告書（旅程順に）

吾郷孝志 EPA 事務局長

2007 年綾部国際行事に第 1 号の参加申し込み

7 月 29 日 午前 6 時、鹿子木旦夫エス普及会理事長、田中雅道同専務理事のお見送りを受け、参加団一行は天恩郷から関西空港へ移動。9 時 15 分、関空 4 階に 14 人が集合し、結団式。11 時 15 分、オランダ航空にてオランダのアムステルダムへ。12 時間の飛行後、現地時間の 16 時 20 分に到着。

4 時間のトランジットの間、アムステルダムの運河を船上から観光。20 時 50 分にイタリアのボローニャ空港へ。22 時 45 分、ボローニャ空港からフィレンツェへ。深夜、1 時 30 分に、フィレンツェ市内のローマホテルにやっとの思いで到着。

7 月 30 日 午前 8 時から世界大会場へ移動し、大会登録手続きを済ませる。大本分科会のポスターを貼ったり、同分科会や 2007 年 8 月 12 ~ 14 日に綾部梅松苑で開催されるエスペラントの国際行事「ようこそ、大本へ」の案内チラシなどを、大会参加者へ配布した。

午前 10 時から開会式に参列。参加者は 62 カ国 2209 人。イタリアの大統領が大会名誉会長に就任、開会式では、フィレンツェ市長が歓迎の挨拶を行った。引き続き、エスペラントの創始者・ザメンホフ博士の直孫のザレスキ・ザメンホフ博士がスピーチ、その後、コルセッティ世界エスペラント協会会長が歓迎挨拶。壇上の同 UEA 役員が紹介され、最後に、62 カ国のエスペラント協会の代表者が短く挨拶して終了した。

午後からは、大本分科会会場視察後、昼食、市内観光。その後、8 月 1 日夜間に、市内のレストランでエスペラント普及会が開催する「夕食懇親会」の出席者（これまで EPA と交流のあった海外のエスペランチストや、“Nova Vojo”誌海外特派員）に、同夕食会参加のご案内をする。

UEA から来年の横浜 UK に出口紅教主をご招待したいとの申入

7 月 31 日 午前中は、裕氏は来年の世界大会（横浜大会）の関

係者打ち合わせに出席。9時から吾郷は、分科会「欧州におけるエスペラント広報活動について」の分科会に出席し、三好鋭郎氏の基調発題や参加者の声を取材。三好氏の欧州の代表的な新聞各紙を通じたエスペラント広報活動について、欧州各国では高く評価されていることが実感された。昼食後、オスモビュラーUEA事務総長と懇談。「来年の横浜での世界大会に、出口紅大本教主（EPA名誉会長）をご招待申し上げたい。同役員会で決定次第、正式なご招待状をお送りしたい」旨のお話があった。

8月1日 午前8時半から、大本分科会場へ移動。大会場で同分科会の案内チラシや2007年国際行事のチラシ、大本教典（エスペラント版）の抜粋小冊子、エス文“OOMOTO”最新号などを配布。分科会で合唱する基本宣伝歌（エスペラント）の練習を大会場前庭で行う。その麗しい言霊に吸い寄せられるように、他国のエスペランティストら多数が寄ってきて、「一緒に歌わせてほしい」という声に一同感激した。

午前11時15分からは分科会場の準備にあたり、大本分科会参加者にはプログラムなどの資料を手渡す。式次第は次のように進められた。11時30分に開会宣言（上山小草）、開会挨拶（三好鋭朗）、司会挨拶（牛腸三春）、アムリ・ワンデルUEA分科会担当役員による、大本分科会開催への謝辞（初めてのこと）鎮魂、（大和田さち）（型の指導）三好ヨシ子、井上弘子、岡尾貴子、梶本香、講話「五代教主時代の大本活動について」（碓大福）、大本ビデオ放映「大本の歩み」、講話「大本と私」（藤本達生、ヒルコ・ミデマ（オランダ）、パウロ・ナセンテス（ブラジル））、講話2007年、大本への誘い（吾郷孝志）、基本宣伝歌合唱（全員）、閉会挨拶（牛腸三春）、閉会宣言（佐藤ミネ）。午後1時に予定通り閉会。

参加者は155人で、ザレスキ・ザメンホフ博士、ローマン・ドブジンスキ元UEA副会長（前ポーランド国営放送局ニュースキャスター・1989年に大本本部を来苑し、「偉大なる根源」（30分間）と題したテレビ番組を作成、現在はバハイ教と大本を合わせて紹介するCDにまとめ販売）グラタパリア夫妻（ブラジル・ポーナエスペロ主宰）、圓仏教代表、バルバラ・ピエトロシャックNV誌海外特派員（ポーランド国営ラジオ放送アナウンサー）など、大本と旧知のエスペランティストが多数参加してくださった。特に、世

界のエスペラント界の精神的な支柱ともいえるザレスキ・ザメン  
ホフ博士のご出席は、参加団一同にとって大きな喜びとなった。

分科会終了後、ポーランドの40代の男性が息子さんと共に、来  
年の綾部での国際行事に参加したい旨を述べ、第1号の参加申し込  
みを済まされたことは関係者にとって大きな励みとなった。そ  
の後、同氏は大本のエスペラント版教典を購入し、「来年夏までに  
教典を熟読して、大本行事に参加することを楽しみにしています」  
との言葉が特に印象に残った。

会場を片付け、ホテルで着替えた後、遅い昼食。市街を観光の  
後、午後7時から9時半まで市内のレストランで、エスペラント普  
及会主催の夕食懇親会を開催。海外招待者のザメンホフ博士、ラ  
ペンナ元UEA 会長夫人、ドブジンスキー氏、コズィラ・ポーラ  
ンドエスペラント協会副会長と同協会役員、バルバラ特派員ら6人  
を迎え招待者から心のこもったスピーチが寄せられ、懇親会は大  
いに盛り上がった。参加者は25人。

8月2日 午前8時半からバスにてヴェネツィアへ移動。約270  
キロ、4時間の道のりを経て到着。市内のサンマルコ広場、ドツカー  
レ宮殿、ガラス工場など見学。同夜はヴェネツィアにて宿泊。

8月3日 午前9時からバスにてミラノへ移動。約284キロ、約  
5時間の道程。到着後、ミラノ市内の観光。スフォルツエスコ城市  
立博物館、ドーモ、ガレリアなど見学し、市内レストランにて団  
員の夕食会を開催。同夜はミラノにて宿泊。

8月4日 午前7時半、ミラノ空港を經由してアムステルダム空  
港へ移動。12時間の飛行の後、関西空港へ。

8月5日 午前9時35分に関西空港に到着。解団式後、天恩郷へ  
電車で移動。午後1時に無事帰苑。

Koran dankon !



## 第91回エスペラント大会に参加して

### 「私の終戦」再考となった世界大会

齋藤康子



左から3人目が筆者

61年前の8月9日、父は満州(中国東北部)で現地召集を受けて、出兵した。後には母と生後88日の私、3歳と5歳の兄姉が北満の地に残された。そして、想像を絶する避難民としての旅が待っていたが、母の渾身の祈りと神さまのご守護によって家族の1人

も欠けることなく、4人そろって日本に生還した。

しかし、父とは生きて再び会うことは無かった。私が3歳になったとき戦死広報が入り、母に連れられて1枚の写真と小さな石が入った遺骨を東本願寺までもらいに行った。薄暗い本堂に白木の箱が整然と積まれていたことを、今でも鮮明に覚えている。毎月8月になると原爆忌、終戦と国中が深い喪に包まれる。私も父との別れを通して、「あの戦争は何のため…」と自問自答しながら過ごしてきた。

母が亡くなり遺品の中に“Nova Vojo”誌とエスペラントのバッジを見つけた。戦争の悲惨さを体験した母は、「言葉が大事」だとしてよく口にしていた。言葉の行き違いや多い少ないから、感情の行き違いや誤解を生み、争いの種をまくと。言葉は「言霊」ともいわれ、親子兄弟だからこそ、大切にしなければならない。言葉に壁があれば争いを起こし、お互いの理解しようとする心を阻むことになるとも言っていた。

私は昨年に続いて今年も、世界エスぺラント大会に参加した。開会式では来賓挨拶の後、各国の参加者代表が次々と壇上に上がって、一言メッセージ。その中で、「私の国からは8人しか参加できなかったが、人口の割合で換算するとこの会場は10万人の参加者で溢れる。戦後61年経た今日もなお、世界のあちこちで戦争や紛争が絶えないだけに、このイランからの参加者のメッセージが心に迫った。

今回は3日間だけの大会参加であったが、昨年に比べて少し聞き取りができるようになり、お客さんの「壁の花」も返上近しと、自己満足している。大本分科会における「鎮魂」は参加された人々の瞑想を通して、世界平和への真剣な祈りだと感じられた。

エスぺラントを通して世界の誰とでも自由に話せるような時代を迎えたとき、人類の前に大きく立ちはだかっているさまざまな障壁が低くなることにより、地球上から戦争や争い事が無くなり、真の世界平和が将来されるのではないだろうか。

そして、これまで「父が眠るシベリアに墓参することが私の終戦」と位置づけていたことが、地上から争い事がまったく無くなったそのときが、私にとっても本当の「終戦」だと思えるようになった。

焦らずたゆまなく努力を続けて、その時を待ちたい。



## エスperantによる大本と韓国・圓仏教との交流始まる

EPA 理事 齋藤 直



セミナーのポスター

### 迎賓用宿泊所へ

大雨の日本を出発し、韓国釜山空港到着後も大雨の中、私達一行とその荷物満載の大型ワゴンはスピード感豊かな運転で、何本もの大水で溢れる川を横に見ながら2時間、なんとか着いたのは星州(ソング)の圓仏教研修センター。大まかなこと以外、宿泊先も、連絡先も、プログラム内容もはっきりわからないまま、何か大人達のミステリーツアーのような雰囲気ではまった圓仏教エ

スperant国際禅セミナー。出発早々、高名なエスperantiストで今回の企画立案者であるイー・ジュンギー教授が直前に急病で入院した事を知りますます・・・。

会場の研修センターは、二代教主の故郷に建てられたものとのこと。緑豊かな松林に囲まれた小さな丘に、迎賓用宿泊所、研修棟、事務棟、食堂棟また付属の保育園等が点々と存在し、日当たりの良い中腹には農園があり、トウモロコシや様々な野菜が野趣溢れる姿で植えられていた。

とりあえず案内された宿舎に荷物を降ろすと、ちょうど夕食時となった。食事はすべてセルフサービスで、炊き立ての白いおいしいご飯にキムチ、スープの他、野菜料理を中心に、魚や時には鳥、豚料理、カレー等様々な料理を頂いた。そこで食前食後のお茶、コーヒー等も楽しめた。後片付けも各自がそれぞれ洗い場で食器等使用した、すべてのものを洗い納めた。

私達が宿泊したのは、その小さな丘の最上部にある平屋の伝統的な建物。初めは信徒用宿泊所のようなものと思っていたが、風通しも良く、敷地全体の最上部にあるので不思議に思って尋ねたとこ



ろ、実は、普通は特別の高僧しか泊まれない迎賓用宿泊所で、つい2週間前にはその教主も泊まれた建物だった。最年長者達に割り当てられた部屋は簡素な中にも豪華で、実にそこが教主用の部屋だった。当初は近代的な研修棟の宿泊部屋をセミナー担当者側は考えていたが、同センター側からぜひ迎賓用宿泊所をとの好意で実現したとの事だった。

安らぎを感じつつ着座瞑想

基本的なプログラムは、翌日第2日目から始まり、午前6時、研修棟2階にある礼拝堂で、各々静かに祭壇の蠟燭だけの灯りの中「着座瞑想」、その後「ヨガダンス」

(指導された国際部長のオリジナルで、圓仏教では一

般的ではない)「清掃」、7時半から「朝食」、午前中は、講習室において、当センターの代表で、同時に地域で一番高い段階の大変尊敬されている老師直々による「講話とそれについての問答」(エスペラント通訳)が昼食まで続いた。「昼食」後、同じく講習室で、セミナー講師による瞑想や圓仏教の教え等について「講話とそれについての問答」(エスペラント通訳)が繰り返され、その時々「休憩」



中央が筆者



研修棟2階にある礼拝堂での開会式

と圓仏教のエスペラント版「讚美歌」の練習があった。夕食後は礼拝堂で「瞑想」「日誌書き」「お経」「礼拝」が9時まで続き、午後10時就寝というものだった。

講習第1日は、言われるまま一つ一つ、プログラムを体験し覚えることが続き、時間的な感覚が大変ゆったりと安らかに過ぎていくように感じ、外界と隔絶された環境ともあいまって一

種独特の雰囲気を受けた。2日目以降は次第に慣れて各プログラムを楽しめる余裕も少しづつでき、時間の経つのも短く感じられるようになっていった。それとともに初めは少し硬かったセミナー担当者達や圓仏教関係者との雰囲気も、ごく自然にふれ合えるようになっていった。また食事



セミナーを訪ねて来た  
エスペ란ティスト達と

時間は若干余裕があり、時にはそれがセンター関係者との話し合いの時間や、合唱練習等にも使われた。

「着座瞑想」「お経」「礼拝」等は大きな金色の輪を中心とした祭壇に向かって行われたが、第三者的に見るその「瞑想」等の行為自体が美しい幽玄の美という感じだった。特に「着座瞑想」は自分自身を見つめ、悟りを自分のモノとする圓仏教の一番重要な行為と捉えられているもので、その安らかな時間は悠久無限な時を感じ、静けさそれ自体が荘厳神聖なものを感じさせ、その思いは自然から宇宙また自分自身の内なるものへ向かった。



二代教主生誕地のお寺

4日目午後1時、星州のセンターを大型バスで出発し、センターの近くにある圓仏教の原則を制定し組織化をなしとげた二代教主の生誕地を記念し建てられたお寺、生家、また幼年期に育った村、圓仏教に出合い祈りを実践し、悟りを得た所に建てられたお寺等の由縁の地を巡り、管理している圓仏教担当者か

ら歴史、教義等の説明を受けた。

その後、バスは一路高速道を、圓仏教現教主の静養されている蔚山(ウルサン)近くの迦智山(カジュサン)道立公園内にあるベネの圓仏教青年研修センターへ向かった。

### 圓佛教青年研修センターでも少年夏期学級

山道に入り日本では考えられない程強烈な蛇行を繰り返し、雲を下に見、登り詰めた所でバスを降り、徒歩で20分程下った山腹一帯にベネ青年研修センターが現れた。5階建ての近代的宿泊研修施設を中心に、すぐ隣に別の研修棟、川の側に山小屋風の休憩所、最上部に御堂、最奥部の木陰に教主用建物等が、深い森とすぐ横に滔々と流れる清流に囲まれ林立していた。また、清流の向う側には広いグラウンドもあった。

着いた時はちょうど夕食時で、100人ほどの子供達のご飯を食べたり盛んにお替わりをしていた。そこそこには疲れ果てたリーダーの顔々、元気な子供達のにぎやかな声が響きわたり、一瞬、大本のどこかの夏期学級に出くわしたようだった。圓仏教でも同じく夏期学級が開かれ、その参加者の4分の3以上は圓仏教以外の子供達とのことでキリスト教のシスターも係員として混じっていた。

また、その研修施設は広く一般にもコンドミニアム的な形で開放されていて、維持管理のための大切な財源となっているとのこと。50以上はあるというこのような研修施設の維持管理は、各施設ごとに自主運営されているとのこと、主に避暑用で冬季ほとんど使用者がいないこの施設の運営は大変とのことだった。



ベネの御堂（達磨ホール）前で

夕食後、ベネのセンターの最上部に位置する、荘厳な御堂（達磨ホール）で閉講式が行われた。初めに、この禅セミナーの責任者の圓仏教国際部長から挨拶があり、その後、すべての参加者、係員から感想が述べられた。一人一人の感想は、楽しくもあり涙ぐむ場面もあり、静かな中、

その場すべての人々の気持ちが一になったような感動に溢れたものだった。閉講式の最後に、大本側から感謝を込めて、初めに能管の演奏、次に八雲琴の演奏、最後にエスペラントで合唱を行った。合唱の一曲目は、圓仏教讚美歌のエスペラント版を斉唱で、二曲目

は大本愛善歌「陽光」を四部合唱で歌い盛んな拍手を頂き、名残り惜しい圓仏教での最終日の夜となった。

#### 教主さまとのご面会

翌日は朝食まで例のごとく「着座瞑想」「礼拝」「ヨガダンス」が御堂であり、参加者の記念撮影、国際部長からの記念品贈呈が行われた。朝食後、各自荷物の整理、感想文また周囲の散策等で過した。



御堂の前、美しい自然を背景に  
教主と大本参加団

圓仏教教主とのご面会は11時から御堂において行われた。そこにはセミナー関係者以外に、圓仏教の高僧

達、その報道関係者達、他のご面会予定者、また釜山からのエスペランティスト達も集い、国際部長、セミナー係員はじめ私達セミナー参加者も皆正装し、厳かな雰囲気の中、同教教主をお迎えした。ご面会は、イー教授のエスペラント・韓国語通訳のもと、初めに国際部長により、これまでの大本との交流の経過と、この禅セミナーが大変な成果を収めさせていただいたことを報告した。次に稲垣人類愛善会副会長が大本参加団を代表して挨拶し、大本教主より圓仏教教主へのお土産をお渡しした。その後、EPAの田中専務理事、斉藤常務理事またオーストラリアからフランツィスカさんによって、受講の感想が発表された。

その後、大本側から八雲琴演奏、圓仏教讚美歌、大本愛善歌のエスペラント合唱が行われ、教主初め会場一同から大きな賛辞と拍手がわきおこった。最後に教主から、両宗教が協力し平和で幸福な世界建設のため一緒に働いていく由、エスペラントを介してこのセミナーは必ず続いていくようにと希望が述べられ、記念品を参加者一人一人に自ら手渡された。その後、教主との記念撮影が、御堂の前でさわやかな風と明るい光の中、深い緑の自然を背景に行われた。

## 国際セミナーは今回で7回目

この圓仏教国際禅セミナーは、実は今回で第7回目を数えるもので、それまでは英語等で開催されてきた。スタッフの圓仏教国際部員達は皆英語に堪能で、国際部長も素晴らしい英語を話されていたが、残念ながら、エスペラント未修得の方々が大半で、今回は圓仏教エスペラントクラブの奉職者のボランティアお二人が中心となってお世話をいただいたものだった。当初はイー教授にお任せすれば大丈夫ということだったのだろうが、肝心の同教授の急病ですべてがどうなるか分からない状況でもあったようだ。

それでも今回のエスペラントでのセミナーは、以前の国際セミナーに比べても、特別な成果を収めたように思われる。それは圓仏教関係者の日々柔らかく変わっていったその表情や、途中から老師はじめ皆さんが“ダンコン”と口に始めたことから、ご面会等すべての行事終了後のイー教授、国際部長の笑顔からも、また、稲垣団長が教主から直接日本語で謝意を頂いたことから伺われる。

さらには、圓仏教におけるエスペラント活動の現状が決して安楽な道ではなく、この数年、その活動がただの趣味のクラブ活動から、教えと共に歩む一つの要素となり得るかの重要な時期と重なっていて、大本参加団はその実践的な成果として寄与し得たように思われる。



セミナーについて報じる教団の新聞記事

そしてイー教授の急病のように、すべてが当初の計画通りとはいかなかったものの、ごく自然に良い方向に転じて行く感覚をいつも感じさせられ、神さまのご守護を感じさせていただいた。またそれは、この人類主義精神に満ち溢れた、世界平和を目指す言葉・エスペラントを生かしたい、この行事を成功させたいとのエスペランティスト達の思いから、双方の教えと信徒の雰囲気の相似性、参加者達自身

の性格的なものから様々な特性まで、多くの要素のすべてが微妙な調和を保ち、そして細い一筋を進んでいるかのようにだった。

#### 釜山エスペランティストたちとの夕食懇親会

ご面会后、大食堂で昼食をとった後、ソングジュの老師、国際部長はじめセミナースタッフの皆さん他の大勢の見送りを受け、圓仏教エスペランティストのボランティアのお二人が添乗し、また釜山から車で出迎えに来てくれたエスペランティストが同道し、大型バスで2時間をかけて釜山に向かった。釜山のホテルの前で、二人とは再会を誓い別れた。

荷物を各部屋に入れてから釜山のエスペランティスト達の案内で市内観光へ向かった。アジアといわれる釜山の海鮮市場、秀吉の日本軍を閑山島海戦などでやぶり、朝鮮を救った英雄「李瞬臣」の銅像が立つ釜山港一望の龍頭山公園や、釜山国際映画祭通り等を地下鉄と徒歩でエスペラントを話しながら散策した。

その夜は、夕食懇親会がもたれ、全体で30人近い日韓のエスペランティスト達が自由に楽しく話し合い過ごした。

翌朝8時ホテルを出発し釜山国際空港から帰国の途に着いた。



釜山での夕食懇親会

#### 【圓仏教 (Ŭonbulismo)】

圓仏教は、90数年前に、韓国で生まれた仏教禅宗系の新宗教で、信徒数約200万人、その数は韓国で4番目に多く、圓仏教に奉職している出家者(女性の方が多い)は約2000人余り。出家者は基本的には結婚せず、教主はじめ高位の役職は投票で選ばれる。瞑想によって各自が悟りを開き、報恩感謝の生活をもととし、怨みを忘れ、すべての衆生を懐に包み込み、平和な理想世界の建設のために貢献することを目標としている。

全国に約600ある教堂では週に一度礼拝が行われ、各教堂には約60～700人の信徒達が参拝されるという。教育関係の活動は特に顕著で、全国に6つの大学を持っている。大本と教義上での大きな違いを見つけることの方が難しいほど似たところを多く持ち、実践している宗教だった。また、教主とのご面会の機会を得たことはもとより、今回使用させていただいた施設は、御堂(達磨ホール)、迎賓用宿舎の使用等、普通のセミナーとは異なりすべて特別待遇であったことが察せられた。

#### 【益山 (Ikusan) イクサン】

全羅北道。「圓仏教」の本部がある市。現在韓国において「百済」の王宮跡が唯一残っている所。百済時代のみろく寺跡の大遺跡が残る。これより北約50kmに「扶余」(プヨ)別名、熊川が位置する。扶余を中心とし益山まで含む地域が、百済後期の都があった地域。圓仏教では百済時代以来の伝統芸能の復活と、継承発展に努めている。また、大本三代教主はこの地域を訪問されるのが生涯の夢だったという。

#### 【星州 (Songju) ソンジュ】

古代から栄えた加羅諸国(倭との関係が深く、その影響下にあったといわれる任那諸国)の一つで、後期盟主国の「大伽耶国」があった地域。この大伽耶国が「新羅」に滅ぼされ加羅諸国の東半分を奪取されたために、「倭」の国(大和朝廷)は残る加羅諸国の西半分を「百済」に割譲し朝鮮半島から手を引いたとも言われている。

その後間もなく、仏教文化爛熟の「百済」は質実剛健の軍事国家「新羅」に滅ぼされた。後、斉明天皇の御代、倭は百済復興を目的として5万人規模の遠征軍を送った。その倭・百済連合軍が、唐・新羅連合軍によって壊滅させられた戦いが、白村江の戦いとして知られている。そのため次の天智天皇の御代、唐・新羅連合軍の侵攻に備え、難波から近江に遷都し、九州・大宰府の水城はじめ瀬戸内海から大和に至るまで数々の山城を築いたとされる。

また滅亡した百済からの難民の一部は、倭の水軍(越の鹿島の津、現在の石川県七尾市に、阿部比羅夫將軍の水軍の本拠があったとされる)とともに、現在の石川県小松市(高麗津?)周辺に辿り着き定住し新田開拓等をしたことが推測されている。(近年、小松市額見地区において、朝鮮半島からの移住一世しか作らないというオンドルの遺構が数10基発見された。現在日本国内では、他に近江の百済寺周辺での2基しか発見されていない。)

圓佛教「国際禅セミナー」に参加して（参加者の声）

エスペラントを通じてアジアから世界へ

稲垣裕彦（人類愛善会副会長）



稲垣団長と金国際部長（左）

金セミナー講師（右）

（１）ウオンプリスモ・大本の正式交流行事となる最初のエスペラントによる「国際瞑想講習会」に参加出来たことは、非常に意義深く、素晴らしいものでした。

（２）エスペラントの有用性を再確認し、自分の会話能力向上の必要性を痛感しました。横浜のUKにも参加し、実力を養いたいと思います。

（３）エスペラントを通じて、日・中・韓・モンゴルなどのアジアから世界に進展する人類愛善運動にお役に立てるならば、こんなに嬉しいことはありません。

生活に密着した実践に共感

牛腸三春氏（EPA 理事）

7月18日から22日までの5日間、韓国慶尚北道の星州（ソンジュ）市郊外にある圓佛教研修センターで開催された禅セミナーに参加させていただきました。この体験は私個人にとって忘れ得ない思い出になりましたが、同時に大本と圓佛教との宗教交流にあたって歴史的な出来事になったのではないかと思います。

圓佛教の国際禅セミナーは今年7回目になるそうですが、使用される言語が韓国語のほかにエスペラントだけというのは、今回が初めてです。参加者は、日本の大本からの11人とオーストラリアからの2人でしたが、韓国人講師のうちの数人を除くと全てエスペラントでした。講演、禅の指導、会話、讃美歌などは直接エスペラントもしくはエスペラントに通訳して行われました。

星州の研修センターは周囲を山に囲まれた小高い丘の上であり、ゆるやかに起伏している敷地のあちこちに平屋や二階建ての建物が点在し、丘の麓には教団が経営する幼稚園もありました。建物の周囲には日本でも見慣れた樹木や草花が植えられ、空き地にはとうもろこしや野菜が栽培されていて、日本の田舎の風景とあまり変わりません。この野菜の一部は、食堂で食材として提供されているようです。韓国には、例年梅雨というはっきりした雨季がないそうですが、今年は長雨が續いてこの地方名産の瓜が大被害を被っているとのこと。滞在中もずっと小雨が降ったり止んだりしていました。



到着した翌日から本格的なプログラムに基づいた研修が始まりました。起床後から座禅、ヨガ、講話、質疑応答、讃美歌合唱、日記、詠唱、礼拝と続き、終って就寝となりますが、その間に3度の食事を頂き、朝または夕べに部屋の清掃、沐浴、洗濯を行います。

このプログラムは、圓佛教布教師や信徒を対象とした研修カリキュラムに基づいているように思われますが、私はあたかも天恩郷の大道場講座を受講している時のような感じを受けました。

81歳の老師が熱を込めて基本教義の講義をなさった時など、私としてはエスperanto語力の低さのために、詳細には理解できない部分があり残念でしたが、圓佛教の教義は深いところで大本の教えと繋がっていると直感しました。仏教の真理を大衆に分かり易く説き、生活に密着した具体的な実践を示して信徒を導く教えであると思い、非常に共感を覚えました。

さらに、今回のセミナーを通じてお目にかかったgan̄gong教主様をはじめ、星州研修センターのSeungsan老師、国際部長さまほか大勢の布教師の方々や、聖地ソングジュでご案内いただいた聖職者の方々のお顔が、どなたも優しく温かいことが印象的でした。古い友達に会ったような錯覚さえ覚えました。

私は今回、天恩郷のエスperanto碑に刻まれている「一つの神、一つの世界、一つの国際語」が実現しつつあると、強く感じました。

おわりに、この研修にご一緒させていただいた皆さまのおかげで、セミナーの期間中、大変楽しく有意義に過ごさせていただいたことを感謝いたします。閉会式の締めくくりと、圓佛教教主さまご面会の最後に、能管の吹奏、八雲琴演奏、エスperantoによる圓佛教聖歌と愛善歌を奉納し、圓佛教の関係者に喜んでいただいたことも大本ならではの返礼と感激いたしました。



互いにストレッチを行う  
(左から二人目が牛腸EPA理事)

### “チャングム”の世界にひたれた喜び

木野榮二 (EPA 代議員)

セミナーは素晴らしい企画でしたね。まったく初めてのことでどうなることかと思いましたが、圓佛教側の献身的な努力と大本側の一致協力の結果、大成功だったと確信します。

私の感想を述べますと、心地よいメロディーがお念仏はもとより、ヨガ、瞑想に至るまで必ずバックに流れており、これが若い人々を惹きつける力になっているのではないかと思います。

ひとつには私の大好きなシンセサイザー奏者「喜太郎」の曲に似たメロディーを、これまた好きな中世韓国のドラマ「チャングム」のバックミュージックで使われていた韓国独特の民族楽器で演奏されるので、まさにチャングムの世界に遊ぶ感があり、足が痛くて辛かった座禅も五体投地もヨガも辛うじて耐えることができましたと思います。



受講する木野 EPA 代議員  
(左から二人目)

休憩時間がたっぷりあり、

Prof. Won 氏を囲んで、稲垣さん、牛腸さん等との歓談の中で、大本は軍部が台頭し軍国主義一色の中にあつた時代に世界の平和を世に訴えたことにより、大弾圧を2度も受けた経緯があることを伝えたら、Won 氏は大変に驚かれ、韓国の人々は全くそのことを知らない。是非、そのことを人々に知らせたい。圓佛教も世界の平和を訴え続けており、これからも協力し合つて行こうと話し合うことが出来ました。

私はみ手代歌碑祭典のため、2日早く引き上げましたが、講座の途中でこっそり退席をする心算でおりましたら、講師の長老を先頭に全員が玄関までお見送りいただき、長老には温かい握手をしていただき、その手の柔らかさと温もりが何時までも心に残り感激しました。

教義を聞くほど親しみがわいて

松本 朗 (EPA 理事)

今回国際禅セミナーに参加して、圓佛教の皆さんに大変お世話になりました。

早朝の座禅では朝日の差し込む板張りの礼拝堂で、祭壇のみ照明された幻想的な雰囲気の中で静かに座して鎮魂を行うものでした。多くの受講者は、聖地やご神前での参拝・礼拝をイメージしていたのではないのでしょうか。興味深かったのがヨガの時間。ヨガといっても従来のようなものではなく、立ったまま心のままに音楽に合わせて身体を動かし鎮魂を行うというリズムダンス体操のようなもの。最後に音楽に合わせて、ステップを踏みながら集まった気を相手に手渡す動作は新鮮な体験でした。

法話の時間では老師さまより生老病死と春夏秋冬、一円相の真理、大小有無、無限無始無終の宇宙の真理などを中心にお話しいただきました。教義の時間は単語の概念を理解するのが難しく、内容

をつかむのに苦労しました。

この圓佛教の敷地内にはいくつも畑があり、野菜類が栽培されていました。それを食堂のご婦人自らが収穫して昼食・夕餉の材料にされていたようです。圓佛教の戒律では飲酒も喫煙も肉食もある程度制限されており、このセミナーを受講すれば精神的には、多忙な日常を離れゆったりと鎮魂をし、肉体的には採れたての野菜中心の健康食をいただき、心身共にリフレッシュできると思いました。

日程の中で二代教主生誕記念館訪問があり、圓佛教の歴史を学ぶ時間がありました。開祖と二代教主の関係、二代教主が天啓を受けた岩、病を癒す岩、さらには教義など聞けば聞くほど大本に似ている点が多いのに驚かされました。

閉講式でキム国際部長が、今まで英語によるセミナーを開催してきたが言葉の壁の高さに苦労してきた。しかし今回のエスperantoではそれを感じなかっただけでなく、心と心が通じ合ったようにさえ感じられたと挨拶をされたのが感動的でした。

今回、圓佛教の方々と韓国のとりのけ釜山のエスperantistの皆さまには心から歓待していただき、まるで国内の大本行事のように何不自由なく過ごさせていただきました。一つ一つの行事を通してお互いの信頼関係が一步一步築き上げられていることを肌で感じることができました。



休憩に韓国茶を頂く  
(右端が松本 EPA 理事)

教主さまの御前で八雲琴を演奏

塩谷恭子 (EPA 会員)

有意義な経験をさせていただいたことは、感謝と共に今後の大きな活力にもなりました。禅の瞑想は鎮魂と同じようですが、大本の「修座」を何度か体験した思いに似ていました。

jogadanco? で体もほぐしてもらい、頭も体もすっきりしてさせていただいた後のご飯はおいしかったです。据え膳でさらにおいしく思いました。

日本語の圓仏教教典を少し読んで行ったので、講話の内容はおよそ私なりに理解できましたがとても難しかったです。

私のエスperantoの語彙のなさもちろんですが、自分の中で抽象的な概念を昇華し、分かり易く言い表すには、その事柄をよく理解

していないと伝えられないし、もっとエスペラントも大本の教義も勉強しないとなあ、と反省しました。

外国に出て初めて日本のことが見えてきたり、知らないことが多いことに気付くように、今回のセミナーを受けて改めて、自分の中の大本を確信もし勉強不足も痛感しました。

セミナー最後の夜、弾かせていただいたお琴は喉の具合悪く息



八雲琴を演奏する塩谷 EPA 会員

タエダエでしたが、教主さまご面会の折は、神さまにお祈りしながら弾かせていただきました。下向さんの能笛や私の八雲琴で、少しは喜んでいただけたかなと思います。そうそう「すり足」の話題から突然始まった木村さんたちのお仕舞には、日本人の私もいたく感動しました。本部の方々の底力？を見るようでした。芸能もまた国際語なり、ですね。

圓仏教には多くの戒律がある

らしく、卑近な例では指導者の立場にある人の服装や、女性の髪形も決まっているとのことでした。カトリックの方とよく一緒に行事を行うというもうなづける気がします。信徒は六段階のレベルに分けられていて、より高いレベルを目指して三十項目のチェックリストで、毎日反省したり明日への目標を定めたりするようになっていて、1人の信徒が10人の面倒を見る組長のような組織があり、寺には毎週お参りする等の話も歓談の時知りました。組織管理が徹底していると感心しましたが、どの宗教にもあてはまるという訳でもないとも思いました。

圓仏教に限らず、共通点や相違点を知ることがどんなに、相手の尊重や互いの友情になることか、またこんなセミナーが世界中のあらゆる宗教間で行われたら、どんなにかみろくの世に近づくだらうにと思います。

今回のセミナーがエスペラントだからこそ、小さな、でも確かな宗際化第一歩だと思いました。宗際化運動、世界連邦の理念、ザメンホフの homaranismo . . .

大本の教主さまの願われるエルサレムでの歌祭りも、そんなに先の話ではないような気がします。

いろいろたくさんたくさん、有難うございました。

## La raporto pri la seminario

Lee Jung-kee

Kunlaboro inter religianoj pere de Esperanto estas la plej ideala.

### 1. Kunlaboro inter religioj

En la seminario partoprenis Oomotanoj el Japanio kaj Ŝonbulanoj el Koreio.

Kvankam ili havas proprajn religiajn teoriojn, tamen tio ne povas esti muro inter ili.

Oomotanoj volonte kaj sincere sekvis la religian ceremonion de Ŝonbulismo, kiu povus esti tute malsama de tiu de Oomoto.

Sed ili kiel religianoj respektis la ceremonion kaj adoro-procedon de Ŝonbulismo.

Tia sinteno estis tre ĝentila kaj respektinda pro tio, ke laŭprincipe oni devas respekti alies religiojn.



二代教主生家前で説明をする  
イー・ジュンギ教授  
(奥の右側)

### 2. Esperanto estis deca neŭtrala komuna lingvo

Ĝenerale, en internacia renkontiĝo lingva problemo estas unu el seriozaj malfacilaĵoj. Sed en tiu ĉi seminario, preskaŭ ĉiuj bone regis Esperanton, pro tio sen interpreto oni povis komunikiĝi libere trans la lingva muro.

En tiu ĉi seminario, ni rekonstatis la faktan, ke Esperanto estas la plej ideala kaj perfekta lingvo en internacia renkontiĝo.

Estis fiere kiel Esperantisto pro tio, ke ĉeestantoj senĝene povis esprimi sian profundan esprimon laŭvole.

### 3. Nova modelo por internacia kunlaboro

Esence, Esperanto-movado estas plenflora en internacia komunikado.

Tiu ĉi seminario montris, ke en internacia kunlaboro kiom gravas la komuna lingvo inter religianoj.

Kompreneble, ĝis nun okazis pluraj eventoj en Esperantujo inter religianoj, sed tiu ĉi renkontiĝo estis unua provo kaj aktuala renkontiĝo inter religianoj el Japanio kaj Koreio en Azio.

Esperanto ne plu ekzistas kiel eŭrope flankigita lingvo, sed estas vivanta en Azio kiel praktikebla lingvo.

Konklude dirite, kunlaboro inter religianoj pere de Esperanto, kio estas la plej ideala kaj alte taksinda.

## ブラジル・エスペラント運動発祥の地カンピーナスで

大本インテルナツィーア所長 前田茂樹



閉会式での教主さまのビデオあいさつ

サンパウロ州カンピーナス市にブラジルで初めてのエスペラント・クラブ「Suda Stelaro」が産声を上げてから今年で100年目を迎えた。その記念すべき地・カンピーナス市で第41回ブラジル・エスペラント大会が開催され、各地から500名のエスペランティストが参加。また、大会期間中、大本

分科会が二度開かれ、教主さまのビデオでのごあいさつが開会式、大本分科会そして閉会式と三度上映された。

### 大本分科会一日目

7月13日、パウロ・セーザ氏と私は、車でブラジリアの大本インテルナツィーア（以下OI）を出発、途中、ブラジルの大本発祥の地・ウベルランジャ市で一泊し、14日、大会地であるカンピーナス市に入った。

7月15日午前10時、宿舎のホテルから大会会場・ゲトゥリオヴァーガス財団大学のコンベンション・ホールに向かう。建物の入口でパウロ・セーザ氏とともに受付を済ませる。シルバ先生とマウリシオ氏（弁護士でシルバ先生と同じ町に住むエスペランティスト）はすでにリオプレートから来ていて、カンピーナス在住のアンジェラさん（以前、大本本部でお手伝いをしてくださった）と私たちを待っていた。

開会式に先立って午後4時から、カンピーナス市内の美術館・シネアス・センターで「大本分科会」を開催。80名の参加者があった。会場では、南米本部が分科会用の資料として作成したポルトガル語のプログラムと冊子「大本とは」、OI雑誌「Oomoto Internacia」第1号が訪問者に配られた。



雑誌「大本インテルナツィーア」を  
紹介するパウロ・セーザ氏

南米本部からは、藤本和治特派  
夫妻、川越参事、早野参事をはじ  
め若い方を含む 15 名の信徒の皆  
さんが参加され、OIからは私とパ  
ウロ・セーザ氏、リオプレートか  
らはベネジット・シルバ先生とマ  
ウリシオ氏が参加し、各人が協力  
して開催にあたった。

開会 15 分前に、この美術館の館  
長さんで広瀬さんという日系の方  
が挨拶に来られ、分科会終了後、館内を案内したいと申し出てくだ  
さった。

大本分科会は、まず藤本毅さんの開会あいさつで始まり、藤本君  
子さんの「八雲琴」の説明、早野口ベルタさんの鎮魂の説明、そし  
て藤本のどか嬢の八雲琴の演奏で鎮魂の実習が行われた。



藤本のどかさんの八雲琴の演奏

その後、早野クラウジオさん  
の紹介でビデオ「歌祭」が上映さ  
れた。スクリーンの昇降機が故  
障していたため、急遽、白黒のテ  
レビを使って放映。そして、栗山  
あけみ嬢の紹介で松任良光氏が  
「世界連邦」について、私が「歌  
祭」について、それぞれ講演。全  
員で「基本宣伝歌」を合唱したあ

と、川越憲男参事の閉会のあいさつで幕を閉じた。

午後 8 時から第 41 回ブラジル・エスペラント大会開会式が行わ  
れた。

開会式の司会は、「Nova Vojo」誌のブラジル特派員をしていただ  
いているルーカス・ヤスマラさん。ルーカスさんは最近まで世界エ  
スペラント協会の言語問題責任者で、素晴らしい司会ぶり。教主さ  
まのごあいさつのビデオは、接続ケーブルの調子が悪く、映像だけ  
で音声流れなかったため、大会組織委員のジェームス・ピトン氏  
があいさつの内容を紹介された。(このことは、後になって神さま  
の大いなるみ計りであることがわかる)

## 大本分科会二日目

7月16日、午後2時15分、機械類の調整の関係で15分遅れで、2回目の「大本分科会」を開催。参加者30名。

昨夜、ホテルの食堂で、ブラジル・エス連盟のペドロ・カバリエロ会長夫妻と会ったとき、教主さまのごあいさつのビデオをもう一度閉会式で流したいという意向を聞いたが、もしもということがあるといけないので、藤本特派と息子さんの毅氏と相談してこの日の分科会でも流すことになる。

ただ、この日もパソコンやCDプレイヤーの準備ができておらず、すべての機械類をまったく使えないという場合のことを想定しなければならなかった。それで、シルバ先生、パウロ氏にも講話をしてもらう用意をした。

結局、15分遅れたものの、教主さまのごあいさつのビデオも、「歌祭」ビデオの上映も、シルバ先生、パウロそして前田の講話も、すべて行われた。

さらに、分科会に、開会式で司会を務めたルーカス・ヤスマラ氏も来てくださり、終了後、AOI（大本インテルナツィーア友の会）に入会。ルーカス氏はAOIの第1番目の記念すべき入会者となった。ちなみに第二番目の入会者は、サンパウロ・エス協会副会長のロベルト・テノーリョ氏。

大本分科会終了後、お手伝いして下さった南米本部の皆さん、そしてシルバ先生、マウリシオ氏、前田、パウロそれにルーカス・ヤスマラ氏も招待して、夕食会をカンピーナス市内のレストランで行った。

前田とパウロ氏のOI組は、本来なら大会3日目のこの日（7月17

日）に帰る予定だったが、ペドロ・カバリエロ会長の言葉（開会式で映像しか流せなかった教主さまのごあいさつのビデオを、閉会式で放映する旨）が気になり、閉会式まで残ることに。

その間、大会場で机を用意してもらい、400部持参したOI機





関誌の残りの50部ほどを配りながら、AOIの宣伝を行った。シルバ先生も私が残るなら自分も残るとおっしゃり、閉会式まで一緒にすることになった。



左から筆者、シルバ博士、セルジョ博士

大会4日目の18日は、ブラジル・エスペラント界で最も有名な作家で翻訳者のパウロ・セルジョ博士の講演を聴講する機会に恵まれた。素晴らしいエスペラントの講演だった。講演終了後、一緒に写真を撮ってもらう。第1日目の「大本分科会」に博士も来てくださっており、大変よい

お話でしたと言ってくくださった。

また、エスペラントアカデミーオのジェラルド・マトス会長とも2年ぶりの再会を果たした。

## 閉会式

第41回ブラジル・エスペラント大会閉会式は、午前10時30分から今大会のメイン会場となっているゲトゥリオ・バーガス財団大学内のコンベンション・ホールで行われた。この閉会式は、大本(南米本部と大本インテルナツシーア)にとってもブラジル・エスペラント連盟の将来にとっても大きい意味を持つものになった。

その第1番目は、閉会式でペドロ・カバリエロ会長の意向通り、教主さまの「ごあいさつ」が大きいスクリーンに映され、教主さまの澄んだ美しいエスペラントが出席者の大きな感動を呼んだことである。ごあいさつが終わると会場の全エスペランチストから大きい拍手が贈られた(ただし、このときも接続ケーブルの不備で音が出ないはずだったが、藤本特派の長男毅氏がワイヤレスマイクで音声を拾うことに成功、映像も音声も流すことができた)。

また、この閉会式には、若いエスペランチストの姿が多く見受けられ、彼らが教主さまのあいさつを聞かれたことの意義は、次の第2番目の理由を考えると、きわめて大きいと言える。

## 第41回ブラジル・エスペラント大会

— 昨年の2004年、大本インテルナツィーア設立記念で教主さまが来伯された折、教主さまはブラジル・エスペラント連盟に4000レアルの寄付をされた。この寄付金がペドロ会長によって若い芽を伸ばすために生かされることになったのだ。それは、今大会から青年のための「エスペラント論文コンクール(同じ内容で弁論発表もする)」が行われることになり、優勝者を世界エスペラント大会やヨーロッパなどに派遣し、その成果を次のブラジル大会で発表させ、将来ブラジルのエスペラント界を背負って立つ青年を育てようというものである。

今回は、「宗教の壁」というテーマを発表した青年が選ばれた。選考の結果発表があった後、ペドロ会長が私を起立させコンクールの原動力となった寄付金等の紹介をしたため、教主さまに代わり、私が会場の感謝の拍手を受けることになった。

この後、海外参加者が一人一人あいさつを行い、私もブラジルのエスペランチストに感謝の意を表した。閉会式は、ブラジル・エスペラント連盟会長の本大会への強い支持と期待で満たされたものになったが、これは、おそらくブラジル・エスペラント大会始まって以来の出来事だろう。



---

Saluto de la Kvina Spirita Gvidantino de Oomoto  
okaze de la 41-a Brazila Kongreso de Esperanto

DEGUĈI Kurenai  
La 15-an de julio 2006

Estimataj kaj karaj gesinjoroj,

Kun granda honoro mi salutas vin, ĉiujn kongresanojn de la 41-a Brazila Kongreso de Esperanto. Mi elkore gratulas pro la memorplena kongreso, kiu ĉi-jare festas la 100-an datrevenon de la Esperanto-movado en Brazilo. Laŭdire, en Campinas, la kongresa urbo de tiu ĉi jaro, fondiĝis la unua Esperanta klubo de Brazilo, nomata, "Suda Stelaro".

Ankaŭ la Esperanta movado de Japanio ĉi-jare atingis sian 100-an datrevenon, same kiel via lando Brazilo. Estas mirinda koincido ĉe ambaŭ flankoj de la terglobo, plej malproksimaj unu de alia. Por festi la 100-an datrevenon de la Japana Esperanto-movado oni invitos al Jokohamo la 92-an Universalan Kongreson de Esperanto venontjare, 2007.

Supozeble, ankaŭ el via lando Brazilo multaj geamikoj vizitos nian landon por paropreni la 92-an Universalan Kongreson en Jokohamo. Kaj, se estus tiuj samideanoj, kiuj povos disponi la tagojn dum la vojaĝo en Japanio, bonvolu viziti ankaŭ nian idilian urbon Kameoka, Kioto, la sidejo de Oomoto. Ni elkore kaj varme akceptos vin.

Nu, karaj gesamideanoj, ni, esperantistoj jam bone konas, ke Esperanto estas tre grava elemento por la mondopaco. Esperanta lingvo estas nepre necesa por la realigo de la ideala mondo de ni, homaro. Tiurilate, la disvolviĝo de la Esperanta movado en Brazilo, kiu estas preskaŭ miniaturo de la mondo por la internacieco de siaj loĝantoj, religioj, organizoj k.a. ja havas specialan signifon.

Do, el Japanio, la plej malproksima lando disde via lando Brazilo, mi elkore deziras, ke ĉiam pli prosperu la Esperanta movado de Brazilo, floru kaj fruktiĝu la 41-a Esperanta Kongreso de Brazilo.

Koran dankon!

## EPA 支部便り

EPA 金沢支部長 / 石川エスペラント会事務局  
斉藤 直

エスペラント講習会 2006 を盛大に開催！

去る6月24日(土)午前9時半から午後5時半まで、良く晴れたさわやかな天候の中、自然溢れる大本北陸本苑を会場に、エスペラント普及会より吾郷孝志新事務局長を迎え、エスペラント普及会北陸、石川エスペラント会、北陸本苑の共催でエスペラント講習会2006が開かれた。

受講者は、吾郷孝志事務局長、石川エスペラント会の川西徹郎会長各講師のもと実質6時間にわたって熱心に受講した。

入門初心者は、川西講師が担当し、氏のエスペラントへの情熱溢れる講習によって、その学習への動機付けを確かにし、さらなる学習への意欲をかきたてるものとなった。また初級・中級者は、吾郷講師に上手に導びかれ、新しく出版された藤本達生先生の会話教本をもとに、楽しみながらの充実した会話講習となった。

また、前日23日(金)夜7時半から10時まで金沢市内のレストランにおいて懇親夕食会が催され、16人が集いエスペラントや世界大会等について楽しい話し合いがもたれた。

当地における約1年ぶりのエスペラント講習会となったが、青年層の参加者も従来より多く、明るい未来を感じさせられるものとなった。

ここ1、2年、エスペラント入門初心者向け講習会が、各地域で新しく開かれ、当地のエスペランティスト人口は確実に増加したように思われる。またそれとともにそれらの講習会の担当者達自身のエスペラント力も確実に向上したように思われる。

また当日夜、同会場で、大本青松会月例会において「現在の大本神業とエスペラント」と題し吾郷講師による講話がもたれ、その後、講師を中心に歓ぎの座が行われ、ご神業、信仰またエスペラント活動について楽しい話し合いがもたれた。

なお、エスペラント講習会の全参加者は34人となった。

## 2006年6月号問題

## 初級

A. 次の文をエスペラントにしてください。

1. いつでもお越しください。
2. どなたでもご利用できます。
3. どこへでも行きます。
4. ご寄付はどれだけでもかまいません。
5. どのような方法でもよいから、その町へたどりつけ。

B. 次の文を日本語にしてください。

1. Ne diru neajn vortojn.
2. Mi legis grandan serion da poemoj.
3. Li ellernis la gramatikojn.
4. Kia estas la koloro?
5. Kiajn fruktojn vi plej ŝatas?

## 中級

A. 次の文を日本語に訳してください。

"Ĉu ĝi mordas?", demandis Kol.

"Jes, jes, ĝi mordas. Ĝi ne nur mordas, Kol, sed ankaŭ enkraĉas fajron en la vundon. Ho, la rano estas nobla besto kompare kun la bufo, knaboj, kaj tre inteligenta, tre inteligenta"..

Sekvis rakontoj ilustraj pri la inteligento kaj dreseblo de la rano, kiuj distris la knabojn ĝis la falĉado finiĝis.

B. 次の文をエスペラントに訳してください。

トルコにおけるチャイ以前の代表的な嗜好飲料は、コーヒーである。コーヒーの原産地であるエチオピアにおいては、はやくからコーヒーの葉や豆を煎じて薬用とする習慣があった。コーヒーがアラビアの地をこえてひろく嗜好飲料として世界に拡大してゆくのは、オスマン帝国の時代である。オスマン帝国は、16世紀にアラビア半島からエジプトにかけての地域を支配下におさめる。17世紀初頭には、オスマン帝国の首都コンスタンチンノーブル(イスタンブール)に世界最初のコーヒーハウスが出現する。(『みんぱく』2005年5月号から)



を表わす -a をつけると、jesa (肯定的な) nea (否定的な)。動詞を表わす -i をつけると、jesi (肯定する) nei (否定する)。名詞を表わす -o をつけると、jeso (肯定) neo (否定) となります。

中級 A : B - 3 : ellerni の el- は「内から外へ」という意味のほか、「.....しとおす」「.....しおえる」という意味もあり、ここは「.....しおえる」です。

中級 A : Ĝ ne nur mordas, kol, sed ankaŭ enkraĉas fajron en la vundon.  
の “ne nur ~ sed ankaŭ” は「.....だけでなく、.....もまた」という意味。  
kompare kun は「.....と比べて」です。

中級 B : チャイはトルコ風、トルコ流に入れた紅茶です。

## 通信添削問題

2006年8月・9月号問題

初級 A . 次の文をエスペラントにしてください。

- 1 . その部屋はみんなのためにいつでも開けられている。
- 2 . 彼は怒ってドアを閉めた。
- 3 . そのドアは長い間閉められている。
- 4 . そのドアは開かない。
- 5 . 料理をするために彼女は卵二個をわった。

B . 次の文を日本語にしてください。

- 1 . Lia kolero daŭris longe.
- 2 . La korpo estas morta, la animo estas senmorta.
- 3 . Li estas bona pianisto.
- 4 . Ŝi estas bona violonisto.
- 5 . Li klarigis la detalojn ne buŝe sed papere.

中級 A . 次の文を日本語に訳してください。

"Kie vi kaŝis vin, Kol? Ni ne vidis vin dum la lasta semajno", salutis la plej granda el la knaboj, kiu nomiĝis Dol Rua (Ruĝa Donĉjo) malgraŭ la flavaj haroj, ĉar la kromnomo vere priskribis lian nun mortan patron, kaj aplikiĝis al li nur kiel mallongigo de "filo de Dol Rua". "Nu, Jano, hejmen denove?", li bonvenis Janon laŭ la insulana formulo por ĉiuj feriantoj, kiuj iel devenis de la insulo.

B . 次の文をエスペラントに訳してください。

書齋の入口にかげられた彼女のモットー "Nec spe nec metu" (夢もなく、怖れもなく) に見られるよう、イザベッラにとっての人生とは、そこに、目の前にあるのが人生であった。たとえ、それが清潔で美しくなかったとしても。〔『ルネサンスの女たち』塩野七生(しおの ななみ)著「イザベッラ・デステ (Isebella d'Este)」より〕

宛先 〒621-8686 京都府亀岡市天恩郷  
エスペラント普及会 誌上講座通信添削係  
(返信用封筒に切手を貼ってお申込み下さい)



## EPA 事務局便り

### EPA 認定級試験合格者

7月28日付交付 (EPAにて実施 H18.7.28)

講師 牛腸 三春 千葉 GOÇO Micuharu 千葉

7月22日付交付 (奈良・岡の上別院講習会にて実施 H18.7.22)

Kvara	4級	中村 隆英	NAKAMURA Takahide	奈良
Kvara	4級	豊田 珠美	TOYODA Tamami	//
Kvina	5級	中村 隆英	NAKAMURA Takahide	//
Kvina	5級	豊田 珠美	TOYODA Tamami	//
Kvina	5級	中島 操子	NAKAJIMA Misako	//
Kvina	5級	中西 澄子	NAKANIŠI Sumiko	//
Kvina	5級	頭師 詮子	ZUŠI Akiko	//
Kvina	5級	中西 崇明	NAKANIŠI Takaharu	//
Kvina	5級	畑中 光男	HATANAKA Micuo	//
Kvina	5級	畑中 勝子	HATANAKA Kacuko	//
Kvina	5級	徳永 智子	TOKUNAGA Tomoko	//

### 第38回エスペラント林間学校

関西エスペラント連盟は、恒例のエスペラント林間学校(Friska Lernejo)を、新大阪で開催いたします。

日程：2006年9月16日(土)13時～18日(月)14時30分。

学習会場：大阪市立青少年文化創造ステーション「ココプラザ」  
(大阪市東淀川区東中島1-13-13, 新大阪駅から徒歩10分)

宿泊所：新大阪ユースホステル(同上)

クラス(講師): 初級1(津田昌夫), 初級2(本郷潤一郎), 初級2(奥脇俊臣), 中級会話(田平正子), 中級(Ma Young-tae, 韓国), 中上級(タニヒロユキ)

参加費：25,000円(食事宿泊込み。部分参加は実費割引き)

申し込み先：関西エスペラント連盟(561-0802豊中市曽根東町1-11-46-204, ファクス：06-6841-1955, kleg@mvf.biglobe.ne.jp)

詳しい案内書は関西エスペラント連盟へ。